

花に関わる私たち  
だからこそできる、  
優しい活動。  
ちょっとした意識の  
変化が何かを変える。

# 緑のキューブ「5×緑」で 都市に里山の季節感を！

あぜ道や原っぱに咲くスミレやタ  
ンポポ、ハコベやアザミ。山に入れ  
ば初夏はクワの実、秋にはアケビ  
……。ほんの数十年前まで、都市で  
も田舎でもよく見かけた、そんなた  
くさんの草木たちが今、急激に姿を

消しつつあります。日本の野の花を  
象徴する秋の七草も、そのいくつか  
は絶滅危惧種に指定されています。  
そんな昔から日本人のそばに寄り  
添ってきた緑を取り戻し、都市に草  
や木とともに暮らす楽しさを広める



ことを目的として誕生したのが、緑化ワイヤーボックス「5×緑(ゴバミドリ)」。上面だけでなく、4つの側面にも植物を植えることができ、通常のプランター比べて5倍の緑を楽しむことができるシステムです。「5×緑の“里山ユニット”」は、多様な植物が共生する里山の植生にならっており、在来の植物10～25種類を組み合わせて作られています。都会で暮らしていると、どうしても季節感が薄れてしまいますが、多様な植物を身近なものとすることで、季節ごとの移ろいを楽しむ豊かさや、日本人らしい感性を取り戻すことができると思っています」

とは株式会社アネックス・5×緑事業部の宮田生美さん。コンクリートに覆われてヒートアイランド化が進んだ都市の植物は単一的で、いまや地方でも田畠の放棄や山の管理の人手不足などで、かつての生命豊かな環境を保つことが難しくなっています。宮田さんたちは里山で森づくりをする人々や放棄された田畠の活用を考えることで、そこで育った草花を供給してもらつて

います。  
「都市で生活をする人々が緑を楽しむことが、里山の植生を守ることにつながる。いろいろな植物を楽しみながら、そんなことも思いを馳せていただければ」  
植物は落葉樹を中心の「里山タイプ」、常緑樹を中心の「常緑タイプ」ほか、日陰に強いタイプの植物を選ぶことも可能。1つからでもオーダーできるので、お店に里山を再現してみては？

- ①店舗前に置かれている里山ユニット。側面までグリーンに覆われているので、よしなチュラルな印象。
- ②都市緑化に利用されている例。都市のCO<sub>2</sub>削減やヒートアイランド対策につながり、里山の植生や環境保全にも役立つ。
- ③自然光と外気が入る場所なら、リビングなどでも里山植物を楽しめる。



## 5×緑「里山ユニット」に 使われている植物たち

里山の風景を写すことを基本に、在来の植物10～25種類をミックスして植栽。側面はティカカズラを中心とし、シラカシ、アラカシ、シロダモ、ヤマブキ、ウツギ、ガマズミ、ゲンノショウコなどの草木が使われている。